

令和 2 年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

※「再審査」となった 6 地域の審査結果については、再審査実施後に発表。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 6年間の活動成果や弱点・課題を踏まえた体系的な地域計画になっている点は評価できる。計画の一つ一つを着実に実現する実行力が望まれる。 ■ 地域プロデューサー、地域パートナーの存在は評価できる。 ■ 具体的な取組の推進や自立に向けた公民連携体制の整備など、着実に取組が進められている点が評価できる。 ■ 海外も視野に入れた総合的な視点をもった計画が求められる。 ■ 著名な観光地としての昇仙峡と、日本遺産の取り組みとの関連をもっと深めることが望まれる。 ■ ストーリーをより意識したビジョンとすることが望まれる。
------	--

評価結果

評価結果	重点支援地域に認定
評価理由および今後に向けた期待	■ 地域活性化計画において「地域プロデューサー（コーディネーター）」とされている人物・役割が、実際にどのようなコーディネート機能を担うのか、組織体制がどのように構築されるのか等、現地調査で確認した結果、日本認定を契機に地域の推進体制や民間の取組が着実に動き始めていることが確認された。 ■ 具体的には、地域プロデューサーを中心とした体制、学生連携、インバウンド対応ガイド等、日本遺産を契機とした活動が着実に進展していることが確認された。 ■ 民間の取組が活発化し始めているが、現段階では初期的な動きにとどまるため、継続的な取組への発展を期待する。また、水晶にまつわる物語性も含め、土地全体のドラマを来訪者が実感できるような魅せ方の工夫にも期待したい。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 地域ブランド「駿州堂」の立上げ等、ユニークで他地域の模範となる取組である点が評価できる。
------	---

評価結果

評価結果	重点支援地域に認定
評価理由および今後に向けた期待	■ 地域ブランド「駿州堂」を活用した日本遺産のストーリーを体感できる観光コンテンツの開発・販売をはじめとして、藤枝駅（西のゲートウェイ）での表示、レンタルバイクでの宣伝（郵便局とのタイアップ）、ボランティアガイドなど、他地域にも応用可能と考えられる取組を実践している点が評価できる。 ■ 今後は、地域ブランド「駿州堂」を活用した観光コンテンツの開発・販売による地域経済への波及効果を拡大し、宿場や周辺地域への更なる横展開等を進めることが期待される。 ■ 『弥次さん喜多さん』に象徴される旅の楽しみ・恥・恐れなどを現代人が体験できるというストーリーの趣旨を活かし、顧客視点を明確にしたプログラム開発の更なる充実が期待される。 ■ 次の計画期間で着実に成果を出していくために、地域活性化計画に沿って事業を推進してほしい。案内版等のインバウンド対応には一部課題が見られたが、その点も計画に明記されており、着実に進めてほしい。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 具体的な取組の推進、民間主導での事業の自立化を目指す体制など、着実な取り組みを進めている点が評価できる。 ■ 自走化や保存と活用の好循環に関するモデルケースとなることを期待する。 ■ 疏水沿線の整備など、疏水船・記念館の運営に偏らない、日本遺産ストーリーを通じた地域活性化における計画の強化が望まれる。
------	---

評価結果

評価結果	重点支援地域に認定
評価理由および今後に向けた期待	■ 琵琶湖疏水エリアは、滋賀県エリアを含め京都市上下水道局が一元管理してきた歴史があり、国宝・重要文化財に指定された疏水関連施設や疏水記念館等の所管施設が適切に管理・活用されている点が評価できる。 ■ 今後、疏水周辺地域（山科エリアや大津エリアなど）の活性化やインクラインの復元に向けた事業等について、地域独自の中長期のアクションプログラム等によって、より具体化することが期待される。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 新たな地域活性化計画は、地域の歴史と文化資源の総合的な活用を意図した体系的なアクションプランになっている点が評価できる。 ■ 具体的な取組や民間主導の体制整備により自立・自走可能な状況を創出していることに加え、若い世代や女性の参画など、日本遺産を軸に地域全体で取り組んでいることが評価できる。
------	--

評価結果

評価結果	重点支援地域に認定
評価理由および今後に向けた期待	■ 6年間の活動において、関係者の連携を可能とする組織体制の構築をはじめ、各種整備や人材育成等を着実に実施してきたことが、現地視察を通じて確認された。日本遺産推進協議会の中核を担う、益田プライドクリエーションなどの組織基盤の強化にも期待したい。 ■ 地域においては、観光事業化等の課題が十分に認識されており、今後の活動の方向性も見えつつある。また、地域活性化計画においても、取り組むべき事項が明確化・具体化され、実行可能な形で整理されている点が評価できる。 ■ 今後は、構成文化財である庭園や寺院等が点在している地域特性を踏まえ、来訪者のまち歩きや周遊を促進する仕掛けづくりを進めることが期待される。 ■ そのため、周遊促進に資するハード面及びソフト面の整備計画を具体化するとともに、「中世」という言葉について、国内外に向けた効果的な伝え方やインタープリテーションの充実を図ることが期待される。 ■ 中世今市船着場跡など、あまり手の入っていない広大なエリアの整備と魅せ方について、さらなる工夫を期待したい。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価	II. 取組内容に関する評価				
<table><tr><td>総合評価</td><td>可</td></tr></table>	総合評価	可	<table><tr><td>総合評価</td><td>可</td></tr></table>	総合評価	可
総合評価	可				
総合評価	可				

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 2地域でストーリーが成り立っているシリアル型であることのメリットを最大限に活かせるよう、両地域の産官民の更なる相乗効果を期待する。 ■ 従前及び今後の取組内容が充実しており、地域の努力と熱意が伝わってくる。次期計画期間において、更なる誘客を実現されることに期待している。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 牛久市を中心に現地調査を行ったが、ガイダンス施設においては日本遺産のストーリーに対する来訪者の理解促進を図る工夫がなされている点などが評価される。甲州市においては、取組が限定的に感じられるため、今後の具体的な取組内容について、明確化を図ることが期待される。 ■ 本地域はシリアル型の日本遺産であるが、歴史的にワインの生産方法や販売手法等が大きく異なる地域において、日本ワイン文化の中でそれぞれが立ち位置を上手くアピールし、結果としてシリアル型の日本遺産地域としてどのように訴求していくかを整理する必要がある。 ■ ワイン文化は世界標準でアピールできる地域資源であることから、民間事業者の視点を取り入れた取組の一層の推進が期待される。 ■ 将来像の達成に向けて、地域活性化計画において、特に磨きたい部分を明確にしたうえで、具体的な計画のもと、取り組んでいくことが期待される。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 通年型観光への脱却を目指す方向性は評価できる。 ■ 取組の方向性や地域ビジョンなど戦略面での具体化を進めるとともに、笠間市・益子町それぞれの個性を生かして、地域の魅力を高めるブランディングや滞在価値の向上につながる、魅力的でわかりやすいビジョンへと高めていくことが望まれる。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ イベントに依存した観光客受入から、平日を含め年間を通じて来訪者が集まる通年型観光地への転換を目指すビジョンや取組の方向性は評価できる。 ■ 「かさましこ」は、地域固有の文化や陶芸産地ならではの価値観など、高いポテンシャルを有する地域であり、的確な目標と具体的な活動の実施により、大きな成果が期待できる。 ■ ビジョンの方向性をより実効性のあるものとするため、地域活性化計画において、具体的な実施事項、役割分担、期日、進捗指標や事業展開等を明確化し、実行可能なものとして見直すことが必要である。 ■ 協議会構成員をはじめ、地域内における日本遺産に対する理解を促進することが期待される。 ■ 日本遺産のストーリーへの来訪者の理解促進を図る観点から、日本遺産のゲートウェイ施設における案内誘導や周知方法等を改善することが必要である。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 地域の新たな産業創出と歴史文化の再生、広域エリアの魅力的な地域づくりがこれからの課題である。個別施策に分断されないような一体的な事業推進が重要。 ■ 「桑都の杜」のオープンで加速されるであろう、5つのコア事業をふくめた「都市型日本遺産」の深化に期待したい。 ■ 公的支援と民間活力を連動させた「地域全体で文化財を守り育てる好循環モデル」の構築に期待する。 ■ 「桑都の杜」をテーマに、地域が一丸となって熱心に取り組が進められていることが伺われ、次期計画期間の取組に期待する。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 日本遺産「桑都物語」がビジョンの核として位置付けられ、将来像の実現に向けた連鎖的な取組が明確に設定されている点が評価できる。 ■ 実施体制については、3部会の役割分担が明確化されているほか、全体をコーディネートする協議会事務局の取組も着実に進められている。また、観光面における取組についても、一定の水準に達しているものと評価できる。 ■ 一方で、八王子は都心に近く、外国人の多い立地であるが、観光面では高尾山への来訪に依存する傾向が見られることから、日本遺産としての意義、とりわけ絹産業と高尾山のつながりについて、来訪者により効果的に発信し、周遊に流動できるような説明が求められる。 ■ その際、日本遺産は文化財や体験の紹介だけでなく、土地に根差す文化や歴史がどう継承されたのかという流れの中で現在があるということを地元が理解した上で発信していく必要がある。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 保存と活用の好循環の創出に向けた取組が整理されている点は評価できる。 ■ 日本遺産認定前から活動実績を重ねており、日本遺産のコンセプトを元に、それぞれの組織のハブとして、地域内外の方々にも活動を波及できる方を、地域プロデューサーとして巻き込んでいる点は評価できる。 ■ マーケティング、取組内容を含め、他地域の模範となるべき内容となっている点は評価できる。 ■ 「物見観光から文化観光へ」への好循環と持続可能性の実現をめざして、体験環境の整備などを積極的に進められることが求められる。
------	--

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 将来像（ビジョン）が明確化されており、「スノウリッチ／Snow Rich」というコンセプトの下、日本遺産のストーリーを実際の「体験」として提供していく視点が評価できる。 ■ 一方で、現時点では、事業内容が商品開発や協賛店舗の拡大を中心としたものとなっており、ストーリーを理解する場も博物館に限られているように感じられることから、今後は、来訪者が地域内を周遊しながらストーリーを体感できる観光コンテンツの具体化が期待される。 ■ 具体的には、雪国の暮らしを体験できる観光コンテンツの整備を進めるとともに、構成文化財の所在地が広域にわたる地域特性を踏まえ、各文化財をつなぐストーリーの整理・文章化や、解説案内版などの説明の充実化を図ることが期待される。 ■ 計画に記載されている取組の抽象度が高いため、日本遺産事業として何を行うのか、推進体制における各関係者の役割分担や連携などについて、具体化することが望まれる。 ■ また、広域に構成文化財が点在することによる周遊上の課題も踏まえ、資源が集積するエリアをゾーニングするなど、来訪者が日本遺産のストーリーを体感できる環境整備を進めることが期待される。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 物産や体験型コンテンツを絡めるなど、姨捨山をブランドの中心に据えながら、総合的な観点で観光事業のベースを創っていくことが望まれる。 ■ 推進体制については、ビジョン達成に向けた取組を推進する実働組織の体制、役割、活動内容を明確化していくことが望まれる。
------	--

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 過去6年間の計画目標に対する達成状況及び取組内容・活動実績については、概ね達成の水準に達しているものと評価できる。 ■ 一方で、新たな地域活性化計画については、実効性の観点からさらなる具体化が期待される。今後は、実働部隊の役割や活動内容、推進体制を明確化するとともに、取組の中核を担うことが期待される観光局（DMO）の経営基盤の強化を図ることも必要である。 ■ 姨捨の棚田の維持にかかる取組は実行されているものの、それ以外の個別事業の効果が限定的となっており、日本遺産ブランドを十分に活用しきれていない面も見受けられる。 ■ 現状では、シビックプライドの醸成に重点が置かれている傾向も見られることから、今後は、地域内の理解促進に加え、「月の都」というブランドをどのように発信していくかについて、関係部局や民間事業者等を横断した総合的な戦略を構築することが期待される。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 4つの柱を成長させるためにも、現状・課題・方針・取組を4つの柱に結び付け、そのなかでキープレイヤーの活躍の場を位置づけるような計画とし、活性化の方向をより明確にすることが望まれる。 ■ 新たな活動の方向性・指針は概ね示されている点は評価できる。全体として、これまでの上田の観光地域づくり*との関係に触れつつ、エリア全体の文化観光戦略の可視化が望まれる。 *例) シルクで栄えた蚕都や上田城などの歴史文化資源と町並み ■ 聖地の湯のコンテンツ化や、太陽の恵みのストーリー体験の具体化が求められる。 ■ 関係者にとってわかりやすく魅力的な計画への修正が求められる。 ■ 具体的な取組の推進や官民が連携した持続可能な体制整備など、着実に取組が進められている点は評価できる。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ これまでの6年間に於いて、基礎となる取組が着実に実施されてきた点は評価できる。 ■ また、日本遺産の認定を契機として、地域の寺社が宗派等を越えて連携する体制が構築されるとともに、キープレイヤーと協議会（市役所）との連携による事業展開が進められるなど、今後の取組につながる素地が形成されている点も評価できる。 ■ インバウンド向けの対応として、地域への来訪の多い台湾・香港をターゲット層として事業構想している点は評価できる。 ■ 一方で、今後の地域活性化計画については、4つの柱に基づき、実行体制と取組のさらなる具体化が期待される。具体的には、誰が、いつまでに、何を行うのかといった実施主体、実施時期、具体的な取組内容を地域活性化計画に明確に位置付け、実行可能な計画として再整理することが必要である。 ■ 今後の展開に向けて、組織体制において多様な意見を取り入れ、共有できる仕組みの検討が求められる。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 手堅い計画となっており、具体的な行動計画の策定と実行に期待する。 ■ ユネスコ無形文化遺産登録を好機として、海外にも積極的な展開を狙うことを期待する。 ■ 課題意識は感じられるものの、具体的な方向性や行動計画は見えないため、計画の中で注力する施策や取組内容についてブラッシュアップをいただくことが望まれる。 ■ 情報発信力の強化に向け、食品に「旬」をつくることも効果的である。 例) ポージョレ・ヌーボー：新酒を売り出す日を決めて、出荷風景から風物詩をつくる等
------	--

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 日常的に官民の多様な連携が行われており、地域ならではのストーリーを生かした多様な取組が試みられている点は評価できる。 ■ また、伊丹市及び西宮市を中心に、構成自治体間における役割分担や、それぞれの強み・弱みに対する一定の理解が進んでいるものと考えられる。今後は、5市のシリアル型としての、こうした認識を地域活性化計画に具体的に反映し、各自治体の役割や取組内容を明確化することが期待される。 ■ また、ガイダンス施設については、展示及びガイドの内容が伊丹諸白や岡田家に関する説明を中心としたものにとどまっており、日本遺産のストーリー全体の理解促進、構成文化財に関する情報提供、来訪者を他地域への周遊につなげる導線づくりの面で改善の余地がある。 ■ 当該施設を日本遺産の主要なガイダンス施設として機能させるためには、ストーリー全体を体系的に伝える展示・解説の充実に加え、構成文化財や他地域への誘導情報、周遊ルート等の提示が必要である。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ 災害と向き合うストーリーは我が国ならではの。ストーリーをふまえると、信仰と古道の存在感が弱い点がかしい。 ■ 前計画期間に実施した各種実証事業の成果を踏まえ、次期計画期間中に着実に定着させることを期待する。歴史資料室のリニューアルや日本遺産ビジターセンターの開設など、誘客の基盤が整備されたことを踏まえ、日本遺産としてさらに充実した取組を進めていただきたい。 ■ 日本遺産は説明や整備が重要な要素となるが、龍田古道のストーリーがどこで説明されているのか、という点は疑問を感じる。観光客の期待に十分に応えられているかという点を再度検討していただきたい。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 「亀の瀬」の地すべりをテーマとした「土木遺産」を核とするストーリーであり、歴史資料室やビジターセンター等のハード面の整備が着実に進められている点が評価できる。 ■ この6年間で環境整備は進められてきたが、亀の瀬エリアのインフラツーリズム、大和川のカヌーといったアクティビティなどの仕組みづくりを含めて、「亀の瀬」という優れた歴史文化資源のさらなる活用や、民間の担い手育成などの課題は残されている。これらについて、協議会においても課題認識されている。 ■ 今後は、ガイドによる解説がない場合でも、来訪者が現地で日本遺産のストーリーを理解できるよう、解説案内板等による文字情報の充実を図ることが必要である。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ シリアル型として日本遺産のストーリーを生かし、地域活性化計画が立てられている点が評価できる。 ■ 修験というテーマや歴史を踏まえた課題や対応の検討がしっかりとされている。 ■ 広域の日本遺産、修験をテーマとした日本遺産のモデルケースとなることを期待する。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ 住民と密接に関わってきた葛城修験を体感できる取組が一定程度実施されている点が評価できる。 ■ 一方で、日本遺産のストーリー全体を説明する解説看板やゲートウェイ施設については未整備であり、ストーリーの理解促進に向けた受入環境の充実が必要である。また、来てもらうためのきっかけが重要であり、修験を認知していない層にも足を運んでもらうようなPRが重要である。 ■ 多くの地域が参画するシリアル型の日本遺産であることを踏まえると、構成自治体間の連携を強化し、地域全体でストーリーを共有・発信していくことが必要である。 ■ 取組を行う組織が専ら公的組織となっており、民間プレイヤーの取組を吸い上げる組織体制へと見直しを行う必要がある。 ■ ホームページも含む情報発信において、修験の強さや誇りのあるストーリーの在り方、歴史的背景を全面に押し出してドラマチックに作って、大いにアピールすることが求められる。

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

総合評価	可
------	---

II. 取組内容に関する評価

総合評価	可
------	---

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

総合評価	■ これまでの6年間の活動を通じて課題が明確化されており、それらを踏まえたビジョンおよび実現に向けた施策体系も一定程度整理されていると評価できる。 ■ 一方で、計画を実現するためのアクションプラン、役割分担、スケジュール、評価指標の具体化が求められる。 ■ 「石見の火山」の要素として、縄文の森、石見銀山、三瓶山など観光客を惹きつける魅力的な要素が多数あり、それらをうまく組み合わせてPRしていくことが求められる。
------	---

評価結果

評価結果	認定継続
評価理由および今後に向けた改善点	■ これまでの6年間の活動を通じて課題が整理されており、今後目指すべきビジョン及びその実現に向けた施策体系が一定程度明確化されている点は評価される。 ■ 一方で、石見銀山（世界遺産＋伝統的建造物保存地区）と、日本遺産ストーリーの中核となっている三瓶エリア等の一帯性とともには差別化が必ずしも明確に伝わっておらず、来訪者に対する「石見の火山が伝える悠久の歴史」についての説明や発信が十分とはいえない。 ■ 今後は、石見銀山の知名度や集客力のみには依拠するのではなく、その他の構成文化財や関連する地域資源を含めた周遊コースを形成することが期待される。 ■ また、地域活性化計画の実効性を高めるため、具体的な取組事項、実施主体、関係者間の役割分担、実施期限、進捗管理の方法等を地域活性化計画に明確に位置付けることが必要である。